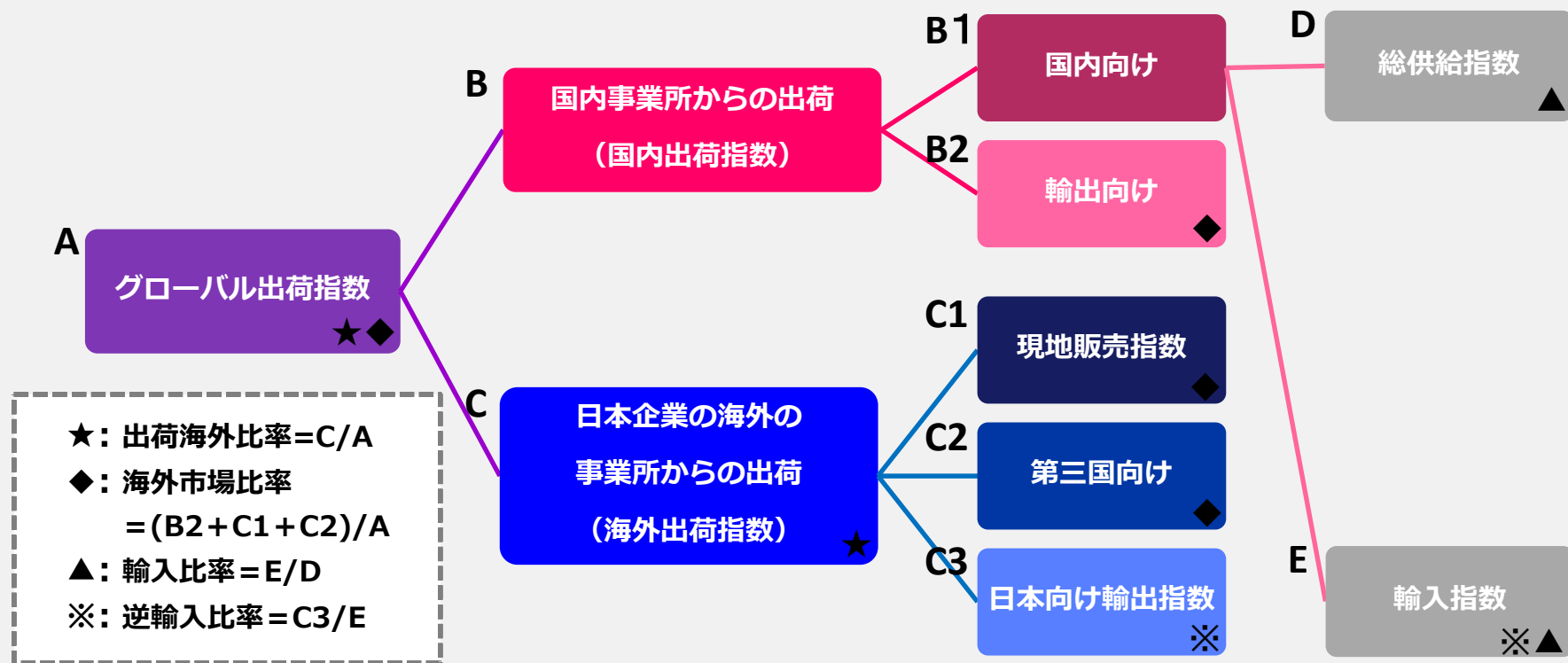


グローバル出荷指数とは？

- 製造業のグローバル展開を踏まえ、国内外の製造業の生産動向を「業種別」に一元的に捉えようとした指標。
- 製造業の動向を事業所ベースで捉えることとし、「鉱工業出荷内訳表・総供給表」と「海外現地法人四半期調査」の組合せにより、**海外生産（出荷）比率等**を算出している。



製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（総括表）

	2016年度	2017年		前期比		
		7～9月期	10～12月期			
グローバル出荷指数	105.7	109.5	110.3	0.7		
国内出荷指数	97.2	100.0	101.1	1.1		
国内向け	96.4	98.8	99.6	0.8		
輸出向け	100.4	105.8	107.3	1.4		
海外出荷指数	132.3	139.6	139.3	-0.2		
仕向け先別	自国向け	133.9	145.1	144.5	-0.4	
	日本向け	122.9	125.8	126.1	0.2	
	第三国向け	132.4	136.6	138.2	1.2	
	地域別	中国(含香港)	130.6	140.9	142.2	0.9
		ASEAN4	118.5	128.0	127.5	-0.4
		北米	159.8	155.2	157.8	1.7
		それ以外の地域	120.0	132.8	128.9	-2.9

注1) 各四半期の結果については季節調整済指数、2016年度の結果については原指数。

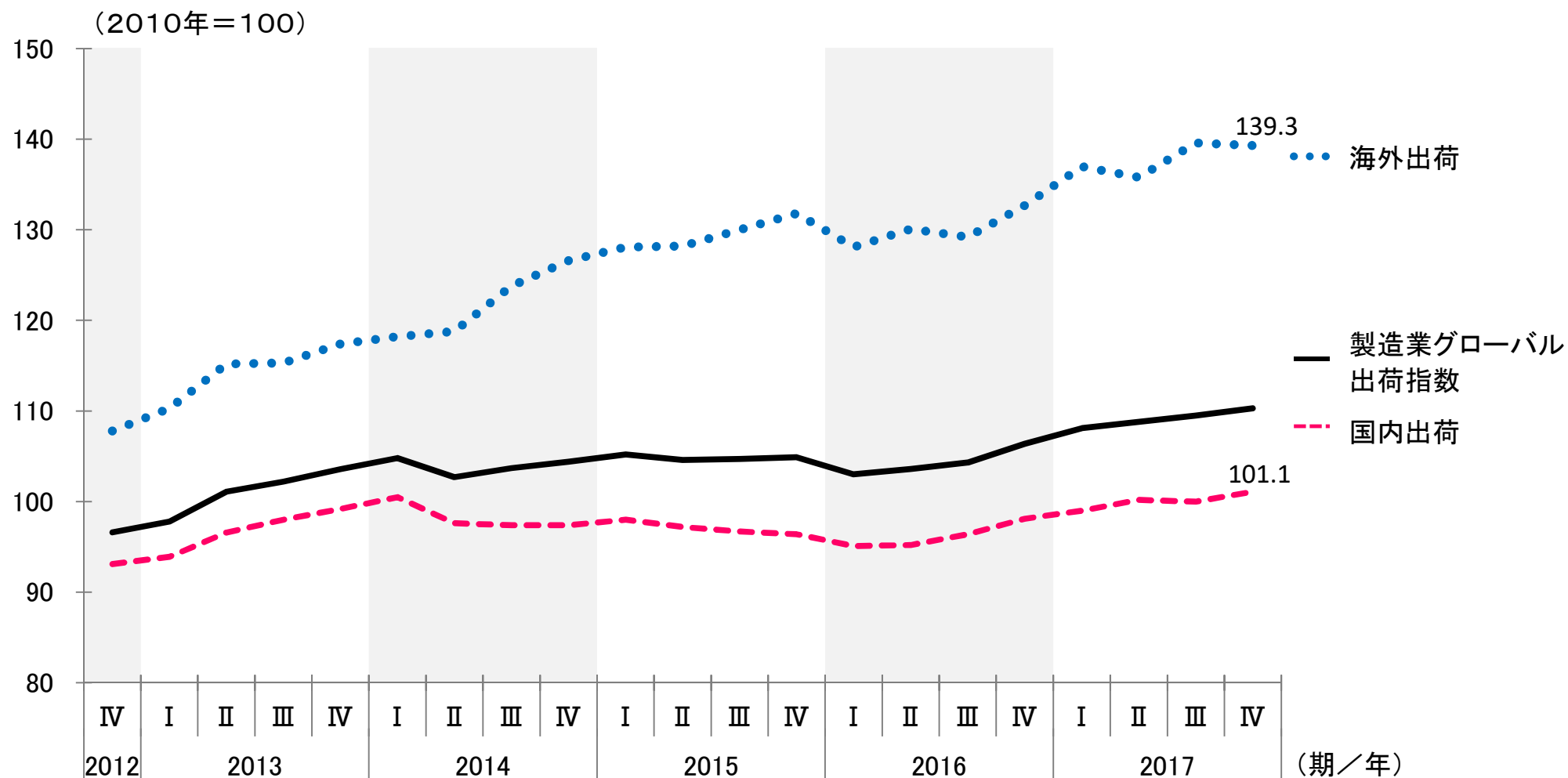
注2) 国内出荷指数は、「鉱業」を含まない「製造工業」の出荷指数。

製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移

2017年第Ⅳ期の製造業グローバル出荷指数（季節調整済）は、110.3で7期連続の上昇（前期比0.7%上昇）。

海外出荷指数は、139.3で2期ぶりの前期比マイナス0.2%の低下。

国内出荷指数は、101.1で2期ぶりの前期比1.1%の上昇。

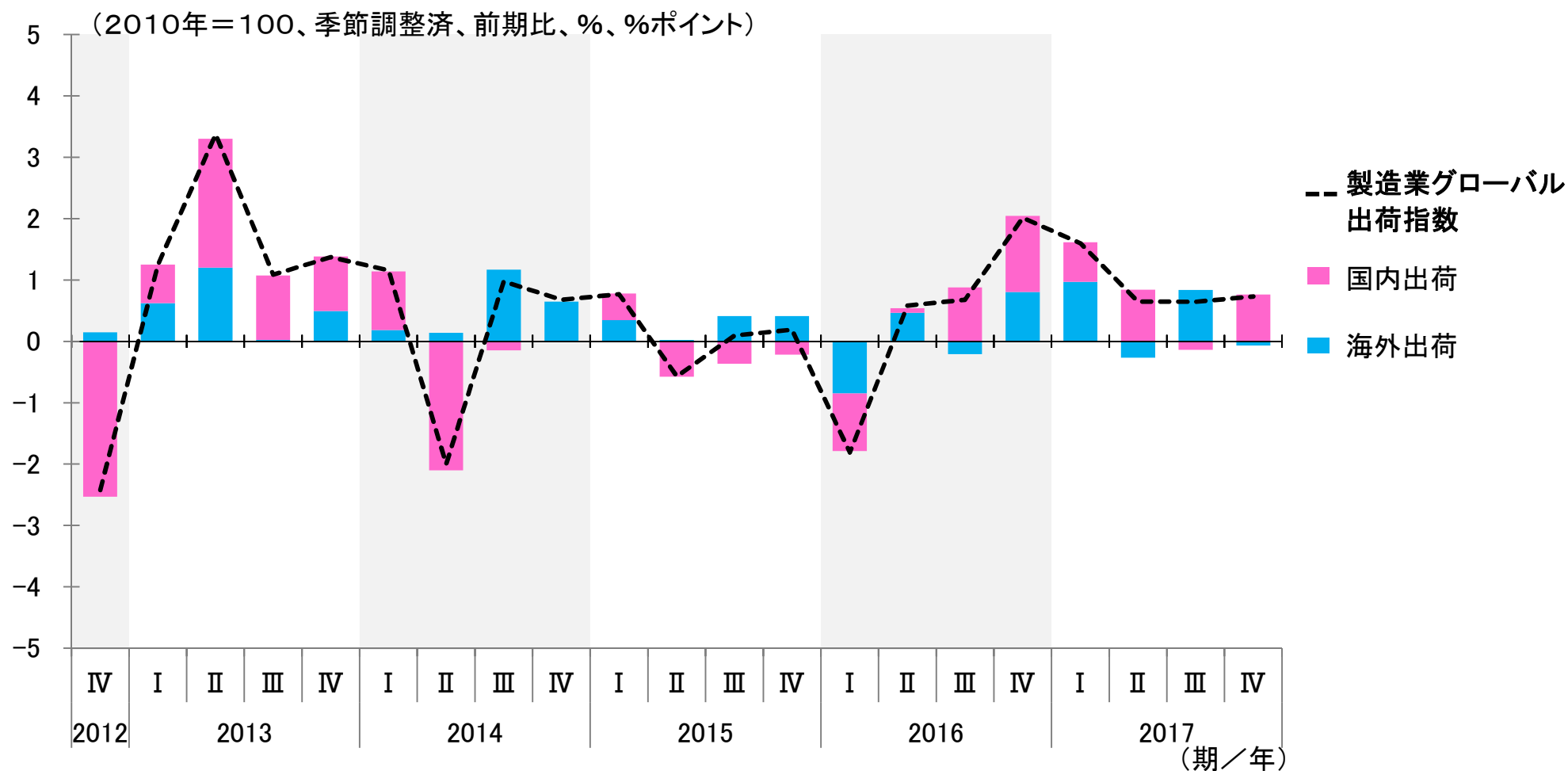


製造業グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（前期比、内外寄与度）

グローバル出荷全体の前期比0.7%上昇において、国内出荷は2期ぶりの0.8%ポイントの上昇寄与。

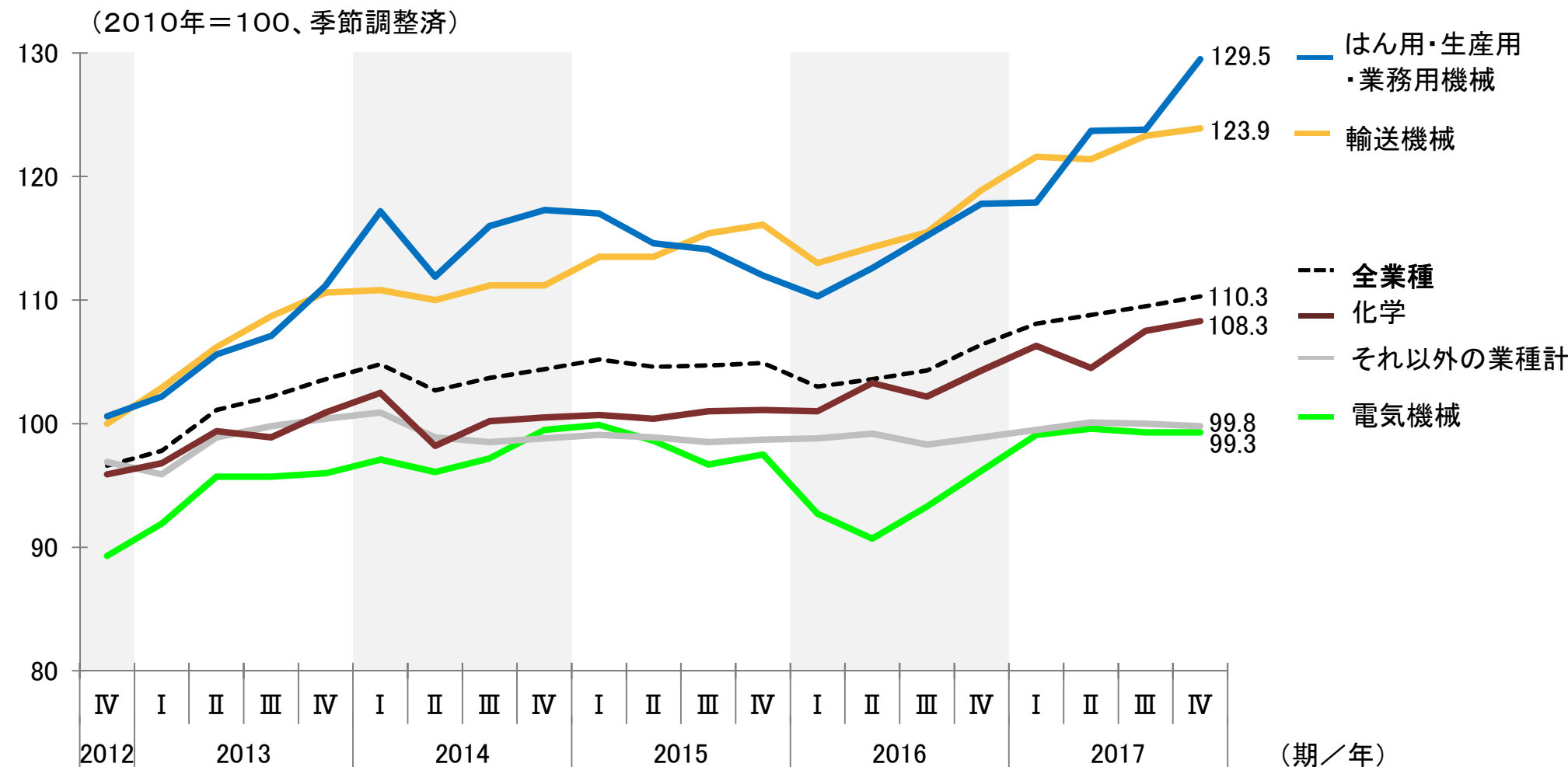
一方、海外出荷は2期ぶりのマイナス0.1%ポイントの低下寄与。

2017年第IV期のグローバル出荷のけん引役は、国内出荷となっている。



グローバル出荷指数（季節調整済）の推移（業種別）

はん用・生産用・業務用機械工業（前期比4.6%上昇）、化学工業（同0.7%上昇）、輸送機械工業（同0.5%上昇）が前期比上昇。
一方、電気機械工業、「それ以外の業種」はほぼ横ばい。



※業種の内容については、スライド35の「用語の説明」を参照のこと。

2017年Ⅳ期のグローバル化比率

2017年第Ⅳ期の製造業出荷海外比率は、30.1%。
2017年第Ⅳ期の海外市場比率は、41.6%。
2017年第Ⅳ期の逆輸入比率は、25.7%。

注) 製造業出荷海外比率:日本国内の鉱工業の活動と日系現地法人活動の比率
海外市場比率:グローバル出荷のうち、海外市場に出荷される割合
逆輸入比率:日本の輸入のうち、日系現地法人の日本向け輸出の割合

	製造業計	輸送機械	はん用・ 生産用・ 業務用機 械	電気機械	化学	それ以外 の業種計
出荷海外比率	30.1%	48.7%	20.0%	33.0%	26.0%	14.7%
海外市場比率	41.6%	59.3%	38.8%	42.0%	39.2%	25.2%
逆輸入比率	25.7%	61.1%	30.5%	48.6%	10.6%	11.1%

グローバル化比率（季節調整済）の推移

2017年第Ⅳ期の製造業出荷海外比率、海外市場比率、逆輸入比率は、いずれも前期より低下。

